

平成20年～平成22年に地域住民のスポーツニーズに応じた研修プログラムの開発と生涯スポーツ指導者の発掘をめざして行われた「地域スポーツ指導者育成推進事業」で作成されたテキスト「地域スポーツ指導者へのステップ」の抜粋です。

1 地域スポーツ指導者

(1) スポーツの意味・意義

スポーツの語源；ラテン語の“deportare”（デ・ポルターレ＝日常の生活から離れること）

◆スポーツは、楽しいという感情を発散させること、すなわち、“楽しみの活動”です。◆

今日、スポーツは、気晴らしの活動、勝利が最優先される活動、健康や体力の維持・増進のための活動、あるいは、友達・仲間との交歓の活動等、実に多様な意味・意義をもつ活動として広がりを見せています。スポーツの多様性が増したとしても、活動自体の“楽しさ”が中心に位置づけられることに変わりはありません。気晴らしの活動としてのスポーツはもちろん、勝利が最優先される活動であっても、勝ちたいという内発的な動機に基づいて活動することが“楽しさ”であり、健康や体力の維持・増進のための活動であっても、活動しなければならないという切迫した必要感だけではなく、活動自体の“楽しさ”が活動を継続させる原動力となります。

(2) 人間の運動とスポーツ

人が歩くことも運動です。また、心臓の拍動も運動といえます。しかし、心臓の運動とはいっても、心臓がスポーツをしているとはいえません。



スポーツには、「身体的な活動」としての運動を伴いますが、その運動が、「楽しさ」を追求する意図的な活動であり、人と人との直接的な交流を通じた「人間性」に満ちた活動である場合にスポーツといえます。

スポーツ = 身体的活動 + 楽しさ + 人間性

(3) スポーツ指導の考え方

人々が多様な目的意識をもってスポーツに参加し、個別の目的の実現に向けて活動する過程で満足を得るという営みを支えるスポーツ指導では、次の3点が大切となります。



- ①スポーツに参加する人たちの状況（技能や体力レベル、関心の程度等）を見極める。
- ②スポーツに参加する人たちに活動の内容としてのスポーツ（挑戦課題や活動の仕方等）を合わせる・調整する。
- ③実際に活動を展開している（した）人々が楽しめている（いた）かどうかを評価し次の活動に活かす。

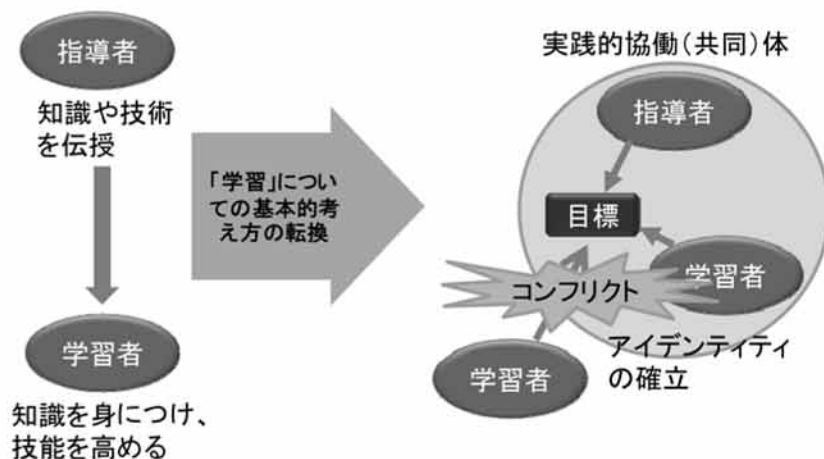
(4) 望ましいスポーツ指導者

スポーツ指導者は、運動の指導に携わる指導者、活動の計画や運営に携わる指導者の二つに大別することができますが、スポーツ指導に携わる立場がどちらであっても、『指導に携わることで自分が、自分を生かせる、自分にとっての勉強（人間としての成長・発達）である』という考え方をもって、実際の指導にあたることが大切です。

伝統的な学習・指導観は、「指導者は学習者（スポーツを行なう人）に知識や技術を伝授し、学習者は知識や技術を高めていく」というものといえます。



地域における住民のスポーツ参加を支えるスポーツ指導においては、伝統的な学習・指導観を転換し、「指導者は学習者と共に共通の目標の実現に向けて活動する存在であり、その過程で問題解決の必要が生じるからこそ、新たな発見があり、お互いに高まる（学習する）」と考えることが大切になります。（正統的周辺参加論を参考にしました。）



生涯スポーツ社会の実現に向けた取り組みが各地で展開されていますが、取り組み当初の勢いが衰えることなく、発展し続けるということはなかなか難しいものです。適切に問題解決にあたり、いわゆるマンネリによる停滞を避けるためには、新しい発想・アイデアを指導者と学習者の共同体に取り込んでいくことが大切になります。

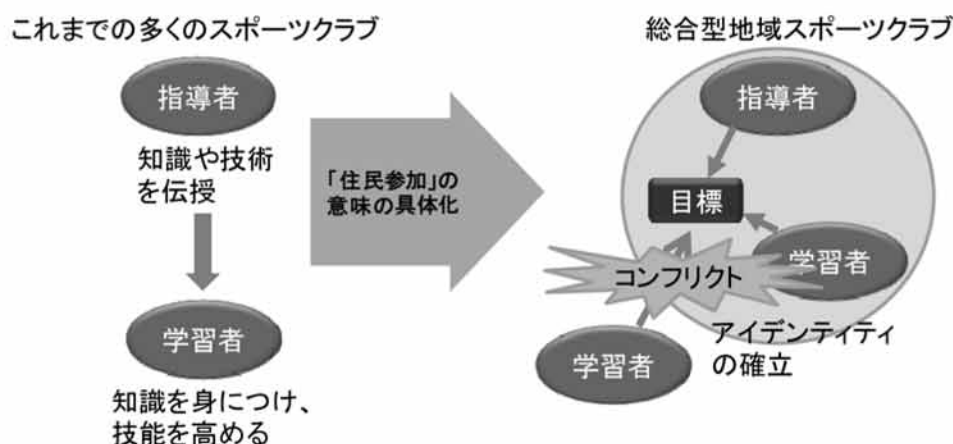
組織的に活動している共同体（クラブ）に、新しく参加した人（いわゆる新参者）が積極的に意見を出すことに対する（意見を出す側、出される側双方に）抵抗がないわけではありません。そこに葛藤（コンフリクト）が発生することになります。

しかし、共同体組織が継続的に発展していくためには、このコンフリクトの発生はむしろ不可欠といえます。

望ましいスポーツ指導者とは、このコンフリクトを上手に発生させ、解消させていく過程を通して、共同的な実践に活を与えるものといえます。

(5) 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、地域住民の共同的意思で組織され運営されるものであることから、指導者（運動の指導者、運営面の指導者）と学習者（スポーツを行なう地域住民）の関係をどのように整えるかは重要な問題です。このような視点から、総合型地域スポーツクラブづくりについて、改めて考え直すと次のようになります。



『クラブ運営は継続的な問題解決過程 ―クラブ運営には問題がつきもの―』

総合型地域スポーツクラブは、クラブの将来を見据えつつ、新しい学習者（会員や指導者）を加えながら、直面する問題の解決に向けて、指導者と学習者が協力する共同体といえます。そのように考えると、問題が多い、課題が山積している・・・という状況は、むしろ自然であり、クラブの発展のためには、問題状況は当たり前とさえいえます。

『クラブづくりは人づくり、まちづくり』

人と人との考え方に違いが起こるのは当然です。そのような葛藤（コンフリクト）を共同して解消していく過程を通して、自分らしさの発見（アイデンティティの確立・人間の発達）が促されます。これが、クラブづくりをとおした「人づくり」です。そのような輪が地域に広がっていくことが「まちづくり」につながります。

『総合型地域スポーツクラブづくりに求められる道理』

総合型地域スポーツクラブづくりは、クラブ組織として一定の安定的な収入が得られるようになったとしても、公益的団体が推進する公共性の高い取り組みであることが求められます。地域の皆で盛り上げるためには、各地域における取り組みに、道理（人づくり、まちづくり）が明確であるか振り返ってみることが大切です。